

グリーンから始めるインパクト評価ガイドについて

ESG金融ハイレベル・パネル報告資料

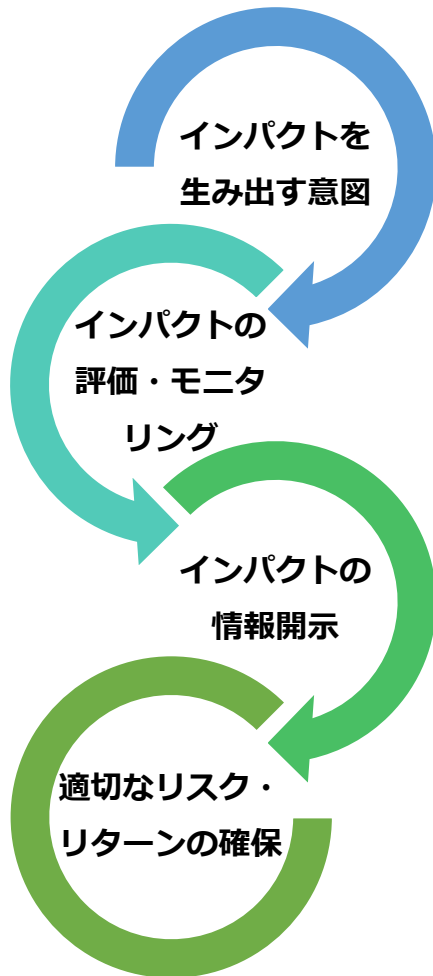
2021年4月16日

ポジティブインパクトファイナンスタスクフォース



インパクトファイナンスとは

- この基本的考え方における「インパクトファイナンス」とは、**次の4つの要素を全て満たすもの**をいう。
- なお、この定義は、UNEP FIのポジティブインパクト金融原則、GIINのインパクト投資の定義、IMPの考え方等を基礎としてまとめたものである。



投融資時に、環境・社会・経済のいずれの側面においても

要素① 重大なネガティブインパクトを適切に緩和・管理することを前提に、少なくとも1つの側面において、**ポジティブなインパクトを生み出す意図**を持つもの

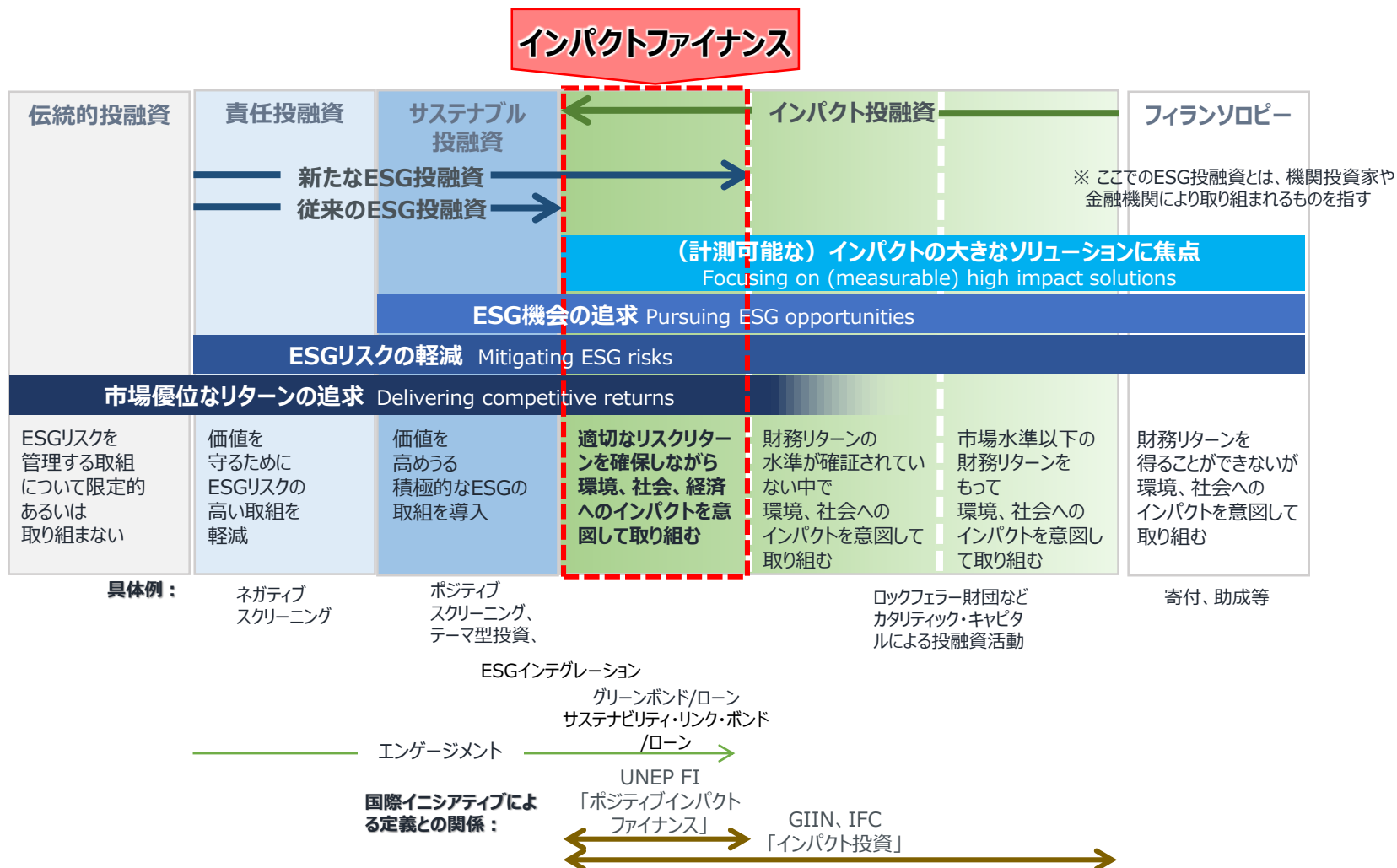
要素② インパクトの評価・モニタリングを行うもの

要素③ インパクトの評価結果・モニタリング結果の情報開示を行うもの

要素④ 中長期的視点に基づき、個々の金融機関・投資家にとって適切なリスク・リターンを確保しようとするもの

(参考) インパクトファイナンスの位置付け

- 「インパクトファイナンス」は、ESG要素を考慮する従来のESG投融資と比較すると、**明確にインパクトを意図する点、インパクトの測定を行う点**が特色であり、ESG金融の発展形といえる。
- インパクトファイナンスを普及していくことで、大規模なESG金融の資金がインパクトファイナンスに発展していく**潜在性**に着目。



■ 第3回 ESG金融ハイレベル・パネル（2020年10月）

「ESG 金融を通じて環境や社会へのポジティブなインパクトを生み出していくため、各金融主体が、インパクトファイナンスの普及・実践に向けて必要なステークホルダーと連携して取り組む」



グリーンから始めるインパクト評価ガイド 概要

(2021年3月 ポジティブインパクトファイナンスタスクフォース)

- 国際的にも様々な試みがある**インパクト評価**について、「インパクトファイナンスの基本的考え方」(2020年7月)を踏まえ、**国際的なイニシアティブ等を参考として一定の考え方や手法を整理したガイドを策定**。
- SDGsの達成や2050年カーボンニュートラルの実現に向け、大規模な民間資金の巻き込みを図る。

目的

- ✓ 国際的な様々なイニシアティブによって示されている考え方やツールを基に、**インパクト評価の具体的な手順を示す**
- ✓ より幅広い主体に手掛けるやすいものとする事で、**明確な意図を持って環境・社会・経済にポジティブなインパクトを生み出すインパクトファイナンスの主流化を目指す**

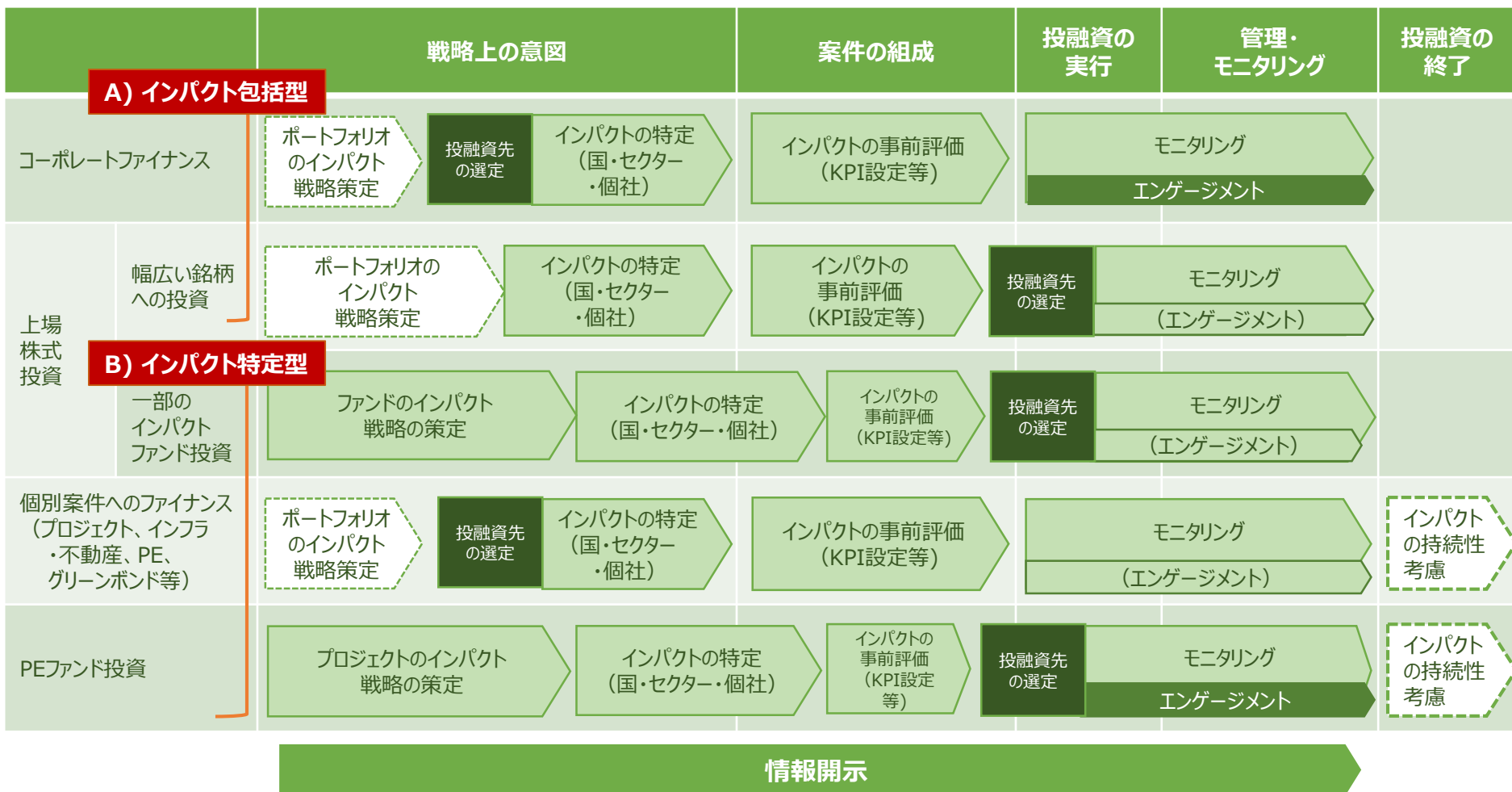
ポイント

- ✓ **特にグリーン（環境）の側面に係るインパクト評価に焦点を当て**、「インパクトファイナンスの基本的流れ」(下図)に沿って、**基本的な手順を解説**
- ✓ 想定する投融資の性質ごとに相応しいツールを活用できるよう、**各イニシアティブにより示されている既存のツールの特徴と、インパクトの評価プロセスにおいてどのように活用できるか**を説明
- ✓ 評価指標の例、代表的なツール類の使い方、インパクト評価の取組事例集など**付属資料を充実**
- ✓ 単にインパクトの測定 (measurement) を行うだけでなく、目的に即して適切な管理(management)を行うことが重要であるという「**IMM (Impact Measurement & Management)**」の議論とも整合



投融資スタイル別のインパクト評価の流れ（イメージ）

- インパクトの特定において、コーポレートベースで多様なインパクトを包括的に把握するもの、プロジェクトやファンドベースで特定のインパクトを狙いにいくもの、という違いがある。
- 投融資のスタイルの種類によって、インパクトファイナンスのプロセスの順序にも差異が生じる。
- 投融資案件の性質に応じて、金融機関/投資家はふさわしい手法を活用する。



情報開示



- インパクトファイナンスにおけるインパクト評価について、国際的にも様々な取組が行われている。
- 国際的なイニシアティブ等を参考に、一例として、投融資のパターンごとの手順についてイメージを提示。
※下記の流れについては、あくまで一例としてイメージを示すものであり、実際には、金融機関・投資家が投融資案件の性質等に応じて取り組むことが重要である。

A) インパクト包括型

（コーポレート、上場株式等）

B) インパクト特定型

（プロジェクト・ファンドベース等）

例えば…

UNEP FIポジティブインパクト金融原則の考え方を活用

例えば…

IMPのインパクトの5側面の考え方を活用

- ✓ 特に重大なインパクトを及ぼす領域（コア・インパクト領域）を特定

UNEP FIのインパクトリーダーや分析ツールを使用し包括的に分析

1

IMPのインパクトの5側面「何を」、「誰が」、「どの程度」、「企業の貢献度合い」、「リスク」から掘り下げ

- ✓ ポジティブインパクトの創出可能性や重大なネガティブインパクトの管理について確認

- ✓ 比較可能なKPI・目標を設定

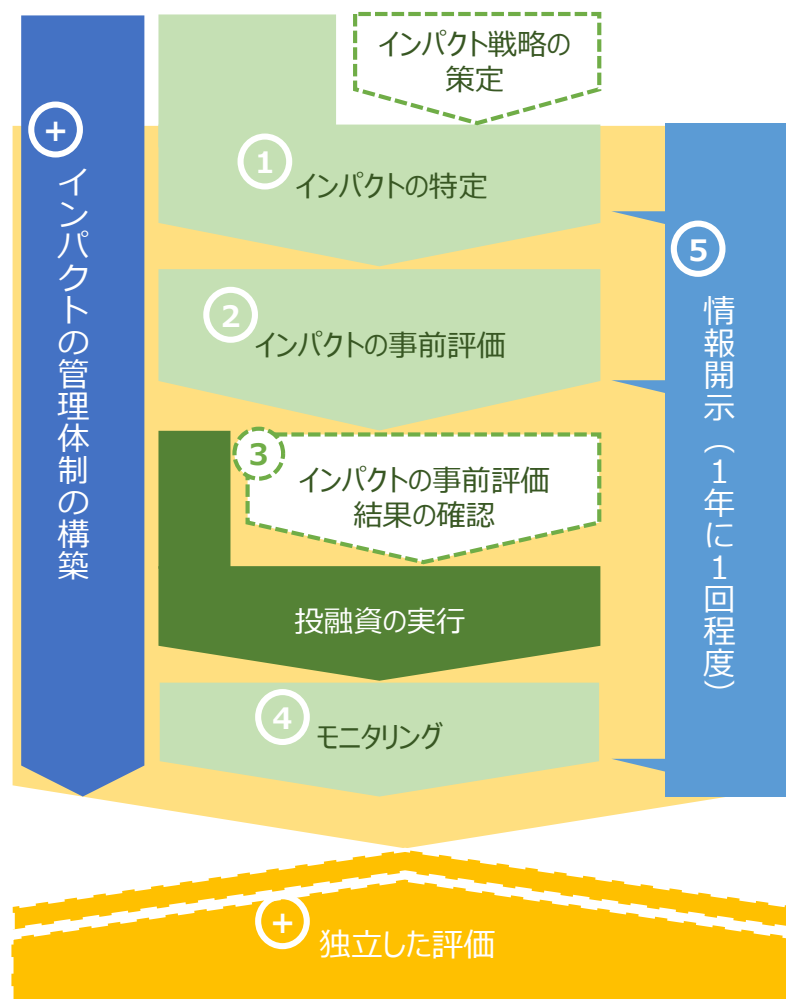
UNEP FIの考え方に基づく3分類（ポジティブインパクト/ポジティブインパクトトランジション/ポジティブインパクトに該当しない）を活用

3

IMPのインパクト評価の5分類（特に、A:害の回避、B:ステークホルダーへの恩恵、C:課題解決への貢献）を活用

- ✓ 意図したインパクトを確実に実現するため、適切な管理体制を構築
※「インパクト測定・マネジメント（Impact Measurement & Management, IMM）」の、国際的議論と整合

- ✓ インパクト評価の適切性を担保し、客観的な説明を行うため、必要に応じて独立した機関による評価を活用





「グリーンから始めるインパクト評価ガイド」より 代表的なインパクト評価ツール等の紹介

- 「グリーンから始めるインパクト評価ガイド」（2021年3月 ポジティブインパクトファイナンスタスクフォース）では、インパクト評価に役立つツール・考え方のうち、UNEP FIやIMP、GIINなどが提供する代表的なものを場合に分けて紹介。付属資料では、各ツールの使用方法を図解。

特に、コーポレートファイナンス、上場株式投資等に有効
(インパクト包括型)

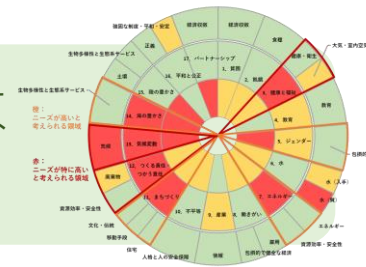
特に、プロジェクトやファンドを通じたインパクト投資等に有効
(インパクト特定型)

1 インパクトの特定 に役立つツール・考え方

- ✓ **UNEP FI「インパクト・レーダー」**
…企業が関わる多様なインパクト領域を包括的に分析
- ✓ **同「コーポレートインパクト分析ツール」**
(コーポレートファイナンスを行う金融機関向け)
…企業の及ぼすインパクトの領域や大きさをマッピングし、そこからコア・インパクト領域を絞り込む

- ✓ **IMP「インパクトの5側面」**
…「何を」、「誰が」、「どの程度」、「企業の貢献度合い」、「リスク」から掘り下げ

「インパクトファイナンスの基本的考え方」の参考で示した日本のインパクトニーズマップも、コア・インパクト領域の絞り込みに活用可能



2 インパクトの事前評価 に役立つツール・考え方

- ✓ **GIIN「IRIS+」**
…①プロジェクトが関連するカテゴリ/セクター（エネルギー、農業等）とテーマ（気候等）を指定し、②そのカテゴリに紐づく戦略的目標（エネルギーへのアクセス、エネルギー効率性等、気候変動への適応）を選択すると、使用が推奨される指標が自動的に表示される ※この指標は、IMPの「インパクトの5側面」に沿って列挙

3 インパクトの事前評価結果の確認 に役立つツール・考え方

- ✓ **UNEP FIの考え方に基づく3分類（インパクトファイナンスの基本的考え方より）**
…ポジティブインパクト/ポジティブインパクトトランジション/ポジティブインパクトに該当しないの3分類を活用
- ✓ **IMP「インパクトの5分類」**
…特に、A:害の回避、B:ステークホルダーへの恩恵、C:課題解決への貢献の3分類を活用

インパクト・マネジメント・プロジェクト (IMP)

- インパクト・マネジメント・プロジェクト (IMP) は、ESGやインパクトの測定・管理・報告に係る重要事項を議論し、世界的な統一基準の形成を目指す。
- IMPには、後述のGIIN、UNEP FI、IFC等も参加。

インパクトの考え方

- どのような活動にも人と地球環境へのインパクトがあることを前提とし、そのインパクトは5つの側面から把握する必要があるとしている。(右図参照)

インパクトの評価方法

- まず、投資先企業の環境・社会的課題(※)を5側面から把握。
- インパクトは、**A (害の回避) < B (ステークホルダーへの恩恵) < C (課題解決への貢献)**の順に大きくなり、進化したインパクト投資となる。
- その後、各課題のインパクト区分を基に、投資先企業のインパクト区分を特定。

(※) CO2排出削減、ヘルスケアサービスへのアクセス等。
 <環境・社会的課題のインパクト評価>

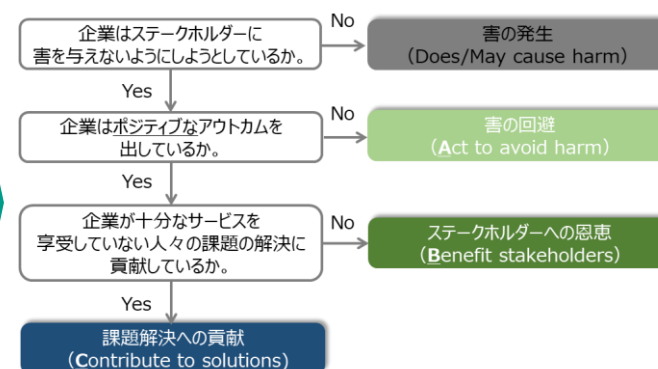
インパクトの側面	各インパクト側面の評価結果				
何を (What)	不明	重要でネガティブなアウトカム	重要でネガティブなアウトカム	重要でポジティブなアウトカム	具体的かつ重要でポジティブなアウトカム
誰が (Who)	不明	様々	十分なサービスを享受していない人々	様々	十分なサービスを享受していない人々
どの程度 (How Much)	不明	様々	高度のポジティブな変化	様々	高度のポジティブな変化
	不明	様々	様々	様々	多くの人々に
	不明	様々	様々	様々	長期間
企業の貢献度合い (Contribution)	不明	様々	これまでと同程度あるいはそれ以上	これまでと同程度あるいはそれ以上	これまで以上
リスク (Risk)	不明	様々	様々	様々	様々
インパクト区分	害の可能性あり (May cause harm)	有害である (Does cause harm)	害の回避 (Act to avoid harm)	ステークホルダーへの恩恵 (Benefit stakeholders)	課題解決への貢献 (Contribute to solutions)

インパクトの5側面

インパクト側面	各インパクト側面において問う事柄
何を (What)	<ul style="list-style-type: none"> どのようなアウトカムが生じるか。 そのアウトカムはポジティブかネガティブか。 そのアウトカムは人あるいは地球にとって重要か。
誰が (Who)	<ul style="list-style-type: none"> 誰がそのアウトカムを享受するか。 その人達はその恩恵を受けてこなかったか。
どの程度 (How Much)	<ul style="list-style-type: none"> そのアウトカムはどのくらい生じるか。(アウトカムを享受する人数、変化の度合い、アウトカムの持続期間など)
企業の貢献度合い (Contribution)	<ul style="list-style-type: none"> そのアウトカムに対する企業の貢献は何か。どんな変化が生じるか。
リスク (Risk)	<ul style="list-style-type: none"> インパクトが予想通り生じなかった場合、どのようなリスクが人や地球にあるか。

出所) IMPホームページ、O. Prentice & L. Emme (2019) . IRIS+ and the Five Dimensions of Impact, p.12を基にCSRデザイン環境投資顧問作成

<投資先企業のインパクト評価>



出所) IMP (2018) . A Guide to Classifying the Impact of an Investment, p.7を基にCSRデザイン環境投資顧問作成

グローバル・インパクト投資ネットワーク (GIIN)

- グローバル・インパクト投資ネットワーク (GIIN) は、ネットワーキングや情報交換、ガイドラインや調査報告書の発行、インパクト測定・管理ツールの提供等を通じてインパクト投資の普及促進を目指す。

インパクトの考え方

- インパクト投資とは、「**経済的なリターンをもたらすとともに、ポジティブで測定可能な社会的及び環境的なインパクトをもたらす投資である**」と定義。
- その上で、インパクト投資について、4つの主な特徴を提示している。(右図参照)

インパクトの評価方法

- インパクトの測定・管理を行うためのオンラインツール「IRIS+」を開発・運営。
- 「IRIS+」では、①**プロジェクトのカテゴリー/セクター**(エネルギー、農業等)、②**そのカテゴリーに紐づく戦略的目標**(エネルギーへのアクセス、エネルギー効率性等)を選択すると、**指標が自動生成される**。
- この指標は、IMPの5側面(WHAT, WHO, HOW MUCH, CONTRIBUTION, RISK)それぞれについて列挙される。
- 各指標は計算方法まで示され、比較可能性が担保されている。

インパクト投資の特徴

インパクト投資の特徴	詳細説明
意図	投資を通じて社会的及び環境的なインパクトを生み出すという投資家の意図がインパクト投資の最も重要な要素である。
金銭的なリターンを期待する投資であること	金銭的なリターンを生み出すことを期待しており、少なくとも元本の回収を期待している。
金銭的なリターンや資産の区分の幅	市場平均リターン以下からリスク調整後の市場平均リターンまでの幅の金銭的なリターンを生み出す。
インパクト測定	社会的及び環境的な成果や進捗を測定し報告することを表明している。

出所) GIINホームページを基にCSRデザイン環境投資顧問作成

(例) 戦略的目標「小規模エネルギー源からの有害物排出の削減」に関する指標

“WHAT”の指標	計算方法
販売製品によるGHG排出の削減	①販売製品の温室効果ガス削減目標の設定 ②総販売量の特定 ③既存製品のGHG排出量の計算 ④交換された製品のGHG排出量の計算 ⑤GHG排出削減量の計算
販売製品によるGHG排出削減のステークホルダーにとっての重要性	影響を受ける人々の観点から、販売製品によるGHG排出削減の重要性の説明

出所) IRIS+からの出力内容を基にCSRデザイン環境投資顧問作成

国連環境計画金融イニシアティブ (UNEP FI)

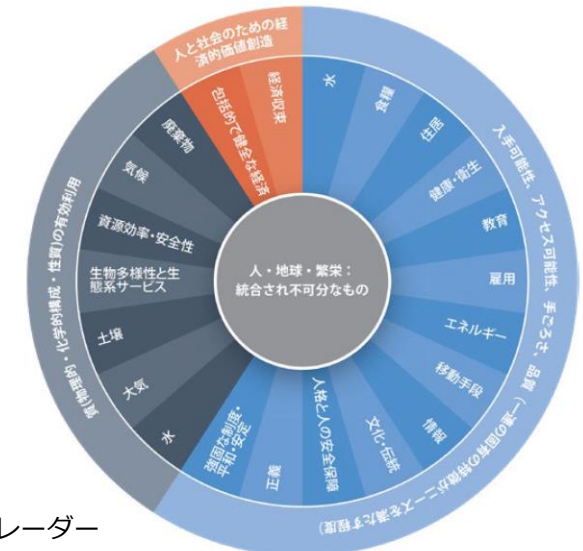
- UNEP FIのポジティブ・インパクト・イニシアティブは、金融機関が意思決定において環境・社会・経済の3側面を検討し、総合的にどのような貢献ができるか (=インパクトを創出できるか) に焦点を当てて考案されたビジネスモデルの推進を目指す。

インパクトの考え方

ポジティブ・インパクト・マニフェスト (2015年)	SDGsの達成に向けて民間資金を調達するための新たな金融パラダイムとして「 ポジティブ・インパクト 」の概念を提示。 市場水準のリターンを確保するとともに「潜在的にネガティブな影響がきちんと特定・軽減されると、経済、環境、社会のうちの1つ以上の側面にプラスの影響を与える」とし、銀行をはじめとする金融機関に対し、SDGsの達成に向けて行動・価値観の変革を促す。
ポジティブ・インパクト金融原則 (2017年)	金融において「 ポジティブ・インパクト 」を創出するための 共通原則 。持続可能な開発の 3側面 (環境・社会・経済) について、 ポジティブ、ネガティブの両面からインパクト評価を行う 包括的な内容になっている。
責任銀行原則 (2019年)	原則2「 インパクトと目標設定 」で実質的に「 ポジティブ・インパクト 」について言及している。

インパクトの評価方法

- 2018年にUNEP FIが開発した「インパクト・レーダー」で定義された22のインパクト・カテゴリーについて、ポジティブ及びネガティブなインパクトを検討し、案件が重大なインパクトを及ぼす領域を特定。
- 事前のインパクト特定、事後のインパクト測定 (モニタリング、報告等) の両方に活用可能。
- ビジネスの意思決定にインパクトの考え方を組み込むためのガイドやツールを開発・提供している。
 - 資金用途を限定しないモデルフレームワーク (2018年)
 - 資金用途を限定するモデルフレームワーク (2018年)
 - ポジティブ・インパクト不動産投資フレームワーク (2018年)
 - Impact Identification & Assessment for Bank Portfolios (2020年)
 - Impact Analysis for Corporate Finance & Investments (2020年)



インパクト・レーダー

(参考) 日本国内の事業におけるインパクトニーズマップ

- 日本国内の事業におけるインパクトニーズを特定する際の参考として、SDGsインデックス&ダッシュボード、日本政府による「SDGs実施指針」、UNEP FIのインパクト評価ツールによる日本のカントリーニーズを関連づけて整理したもの。

凡例：

同心円の最内層：
・SDGs

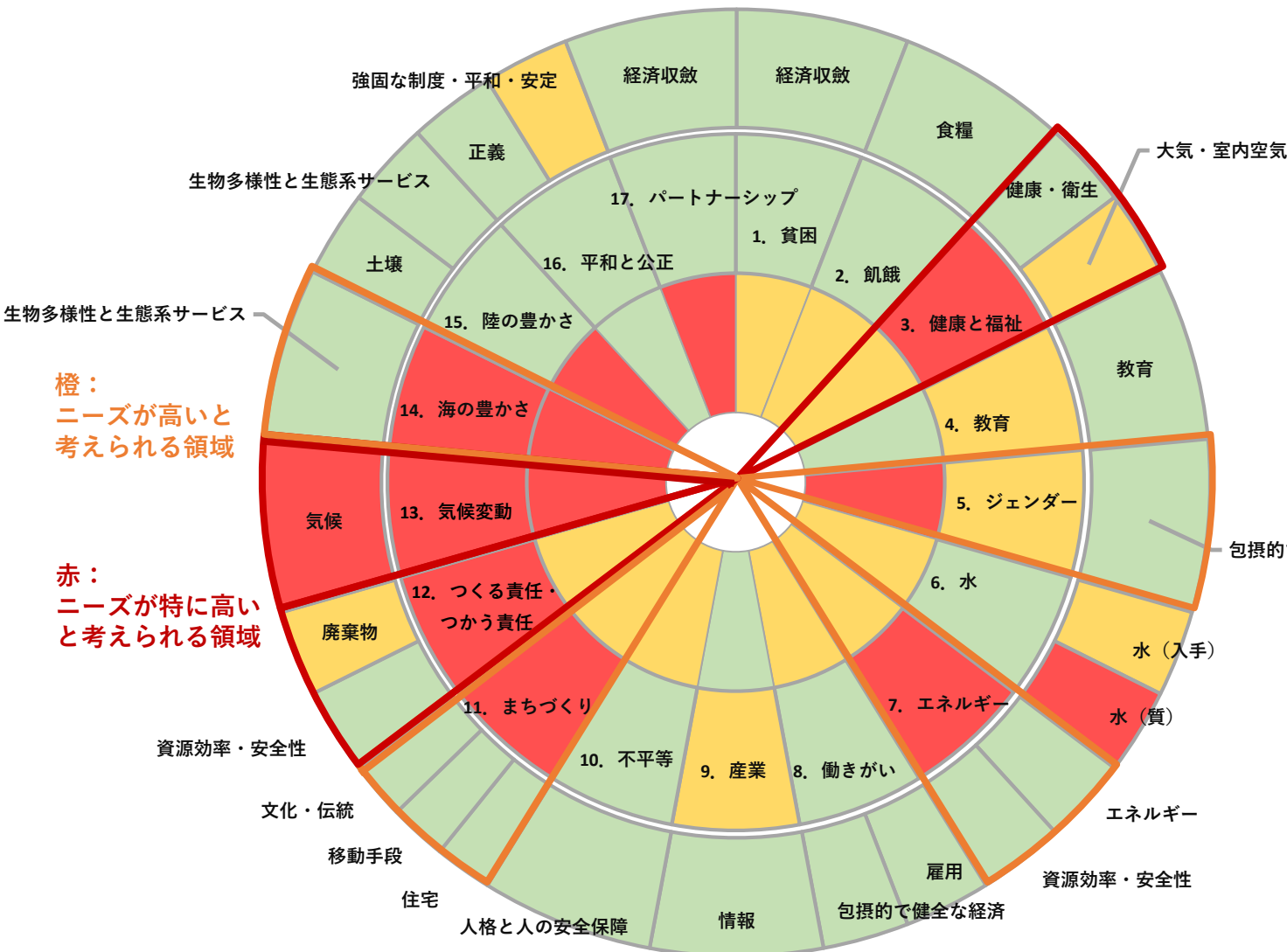
「SDGsインデックス&ダッシュボード評価」によって我が国において最も対応が必要とされたSDGsを赤色、対応がなされていると評価されたものを緑色、それ以外を黄色とした。

同心円の中間層：
・対応する
日本政府「SDGs実施指針」

日本政府「SDGsアクションプラン2020」に記載の「経済財政運営と改革の基本方針2019」において、日本が国際社会をリードするべき取組として示されたSDGsを赤色、その他進めるべき取組として示されたSDGsを黄色、その他を緑色とした。

同心円の最外層：
・対応する
主なUNEP FIインパクトカテゴリ

日本のカントリーニーズにおいて最もニーズが高い（スコア4）と評価されたものを赤色、最もニーズが低い（スコア1）とされたものを緑色とし、その他のものを黄色とした。



橙：
ニーズが高いと
考えられる領域

赤：
ニーズが特に高い
と考えられる領域

地域金融機関によるインパクトファイナンスの取組 静岡銀行

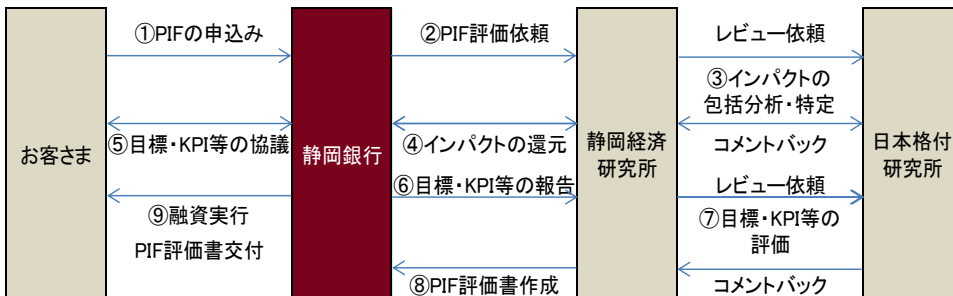
- 静岡銀行は、国内の地域金融機関として初めてポジティブ・インパクト・ファイナンスによる融資を実施
- UNEP FIの「ポジティブ・インパクト金融原則」等に準拠しつつ、中小企業向けにインパクト評価を行う体制を構築

- 「インパクトファイナンスの基本的考え方」及びUNEP FIの「ポジティブ・インパクト金融原則」に基づき、静岡経済研究所が日本格付研究所（JCR）の協力を得て、**地域金融機関ならではの中小企業向けのインパクト評価を行う体制を構築**
- 静岡経済研究所とともに「ポジティブ・インパクト金融原則」に基づき構築した内部管理体制に従い、インパクト評価で特定したKPIについて、融資期間中における借入人のインパクトパフォーマンスのモニタリングを実施

▼インパクトを測定するKPI（指標と目標）

特定されたインパクト	KPI（指標と目標）	関連するSDGs
<社会面> 多文化共生 ①外国人従業員に対する雇用環境の整備 ②地域活動への積極的な参加	・2025年までに、外国人教育プログラム「HIRAVI メソッド」を作成し、社内で適用するとともに、社外に公表する。 ・性別・国籍に関係なく全従業員に対する同一労働同一賃金の給与体系を維持する。 ・2030年までに、技能実習生の社宅を整備する。 ・志を同じくする中小企業とともに、中小企業のダイバーシティの推進と、多文化共生社会の実現に取り組む。 ・外国人従業員の生活向上や地域コミュニティへの円滑な溶け込みを支援する。 ・地域と連携し、地域活動に積極的に参画する。	4 質の高い雇用を創出 8 持続可能な成長を促進
<経済面> サプライチェーン維持 地域経済活性化 ①品質向上、生産効率向上 ②「遠州織物」を使用したマスク製造・販売	・2030年までに、BCP対策を強化する。 ・2030年までに、工場レイアウトの見直しや機械化を進め、品質向上、生産効率向上を実現する。 ・地域との共生を一義とし、地方公共団体とも連携し、地域の発展に資する取組を行う。	8 持続可能な成長を促進
<環境面> 環境負荷低減 ①生産活動における環境負荷低減 ②企業活動における環境負荷低減	・2025年までに、直行率100%を達成する。 ・2030年までに、営業車両をエコカーに切り替える。 ・2030年までに、太陽光発電設備などクリーンエネルギーを導入する。	11 持続可能な都市とコミュニティを構築 12 持続可能な消費と生産

▼実施体制



(参考) インパクトファイナンスの普及に向けたロードマップについて

(2020年7月提示)



最終目的

全ての機関投資家・金融機関等が全てのアセットクラスにおいて、
インパクトファイナンスを実践

メイン
ターゲット

第1段階

(～2021年3月) (2021年4月以降)

第2段階

(中長期)

大手金融機関・機関投資家

地域金融機関や中小・個人
投資家への取組の波及

「インパクトファイナンスの 基本的考え方」

- ✓ 投融資タイプ全般に共通する「基本的考え方」を整理

「グリーンインパクト評価ガイド」 (仮称)

- ✓ 投融資タイプ全般に共通する「評価ガイド」を作成
- ✓ **環境**面のインパクト領域について、KPI等詳細の検討

- ✓ 投融資タイプ又は投資対象となる業種ごとの評価ガイド等の作成をニーズに応じ検討
- ✓ 普及に向けたインセンティブ等の促進策の検討

- ✓ 環境以外の側面のインパクト領域についての連携

対外発信

取りまとめの周知・普及

インパクトファイナンスの普及に向けたセミナー・シンポジウム等

タスクフォース外

- ✓ インパクトファイナンスの取組調査・支援の検討
 - ✓ 海外発信、関係者と連携
- ✓ 意欲のある地域金融機関・個人投資家への普及・連携